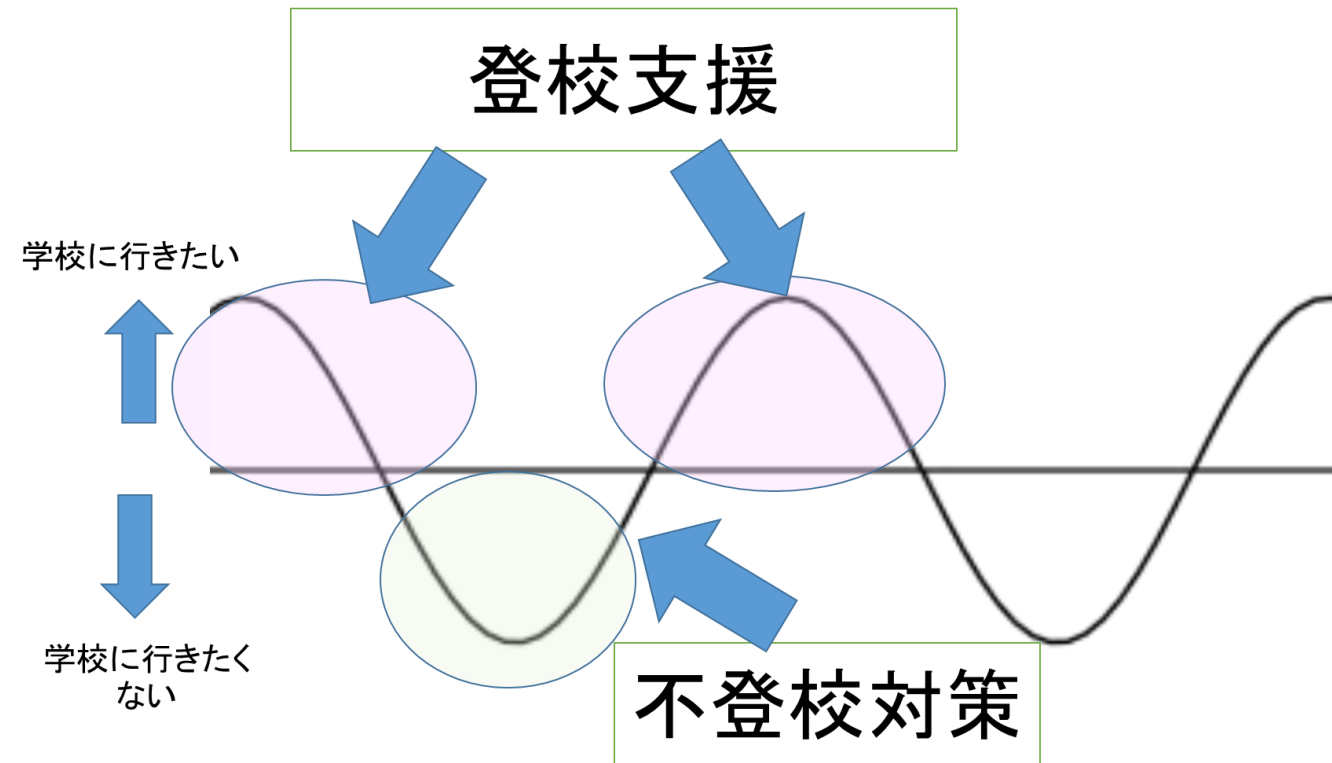


# 日進市—不登校対策—登校支援事業と課題

「不登校」は状態を示している  
決して、不登校への対策が必要でなく

「登校したい！」を支援する事業



## 本市の成果

- ①不登校児童生徒数の減少
- ②いじめ認知件数の減少

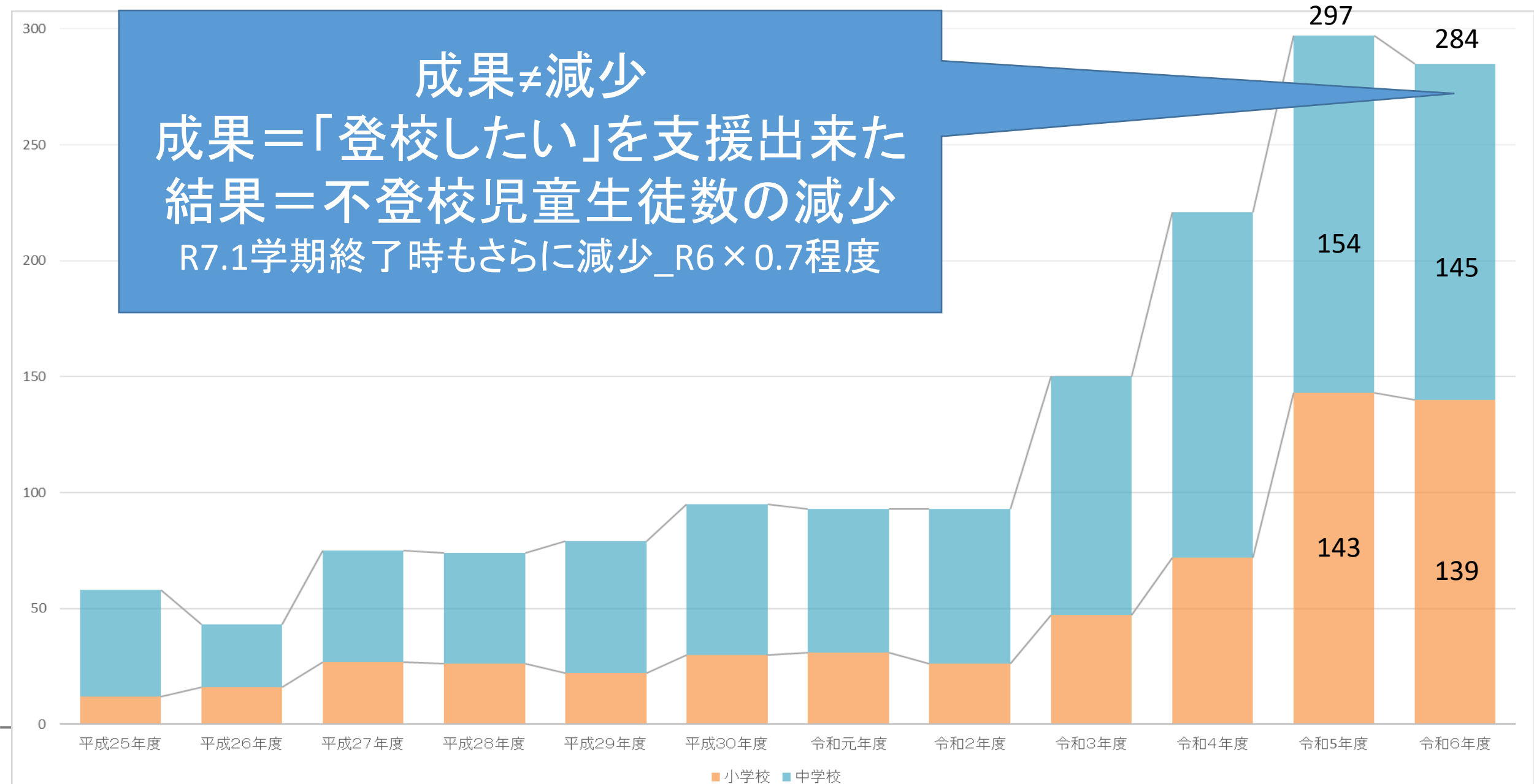
⇒全国ではどちらも増加(R6\_文科省報告)

# 成果①R6不登校児童生徒数\_小・中学生とも減少へ

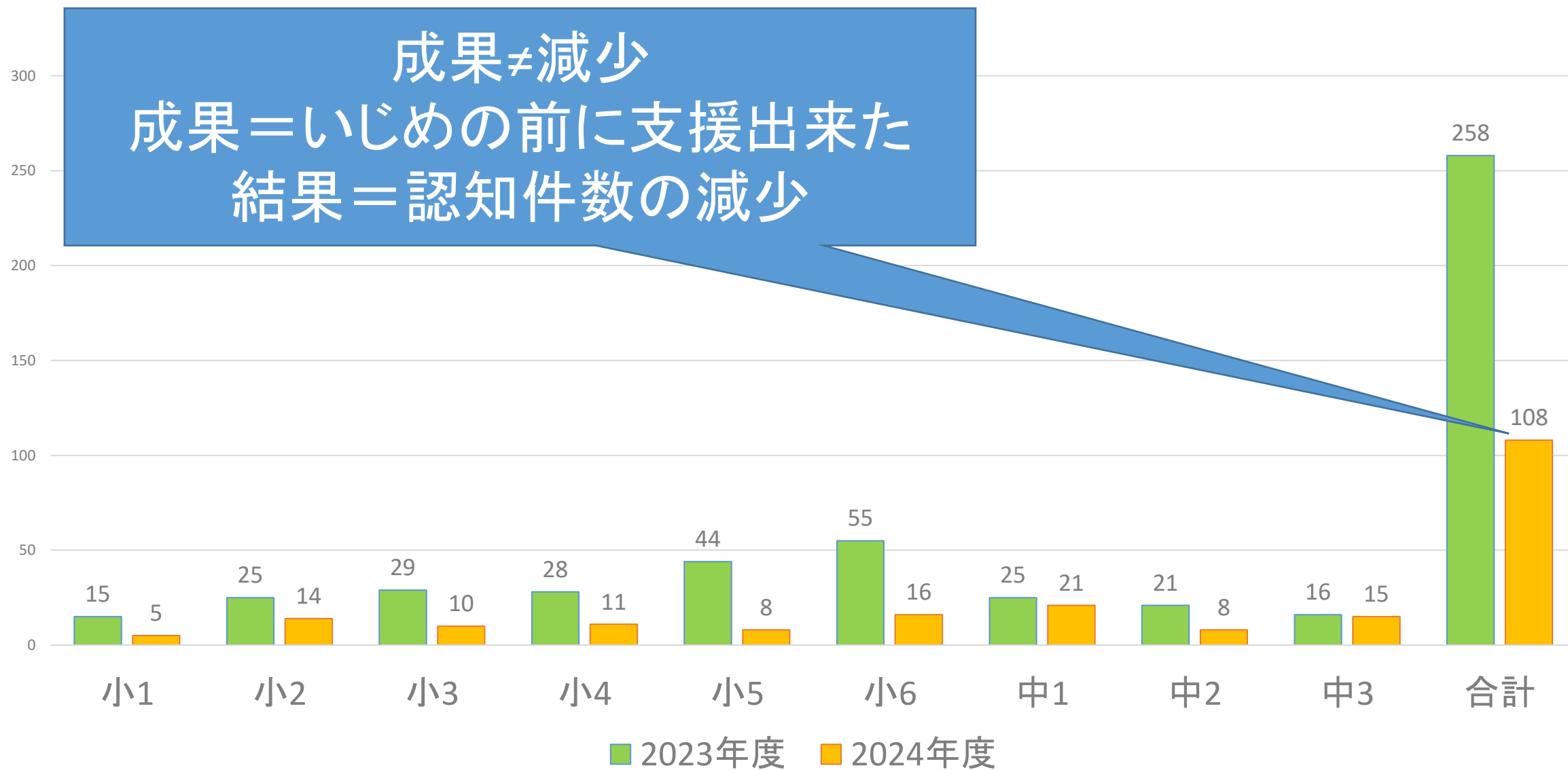
成果≠減少

成果＝「登校したい」を支援出来た  
結果＝不登校児童生徒数の減少

R7.1学期終了時もさらに減少\_R6×0.7程度



## 成果②いじめ認知件数減少へ



## 具体的取り組み

# 資料①学級づくり＝学級力向上PJ×スマイルクラス

学級の支持的風土を高める(学級会:話し合い)

児童生徒自身が、学級の目指す姿のため、学級会など話し合い活動を市内教職員全体(市現職委員会)で実施。

アプリ「スマイルクラス」を活用し、学級状況の可視化。

【学級経営の考え方】

学級担任＝学級経営者

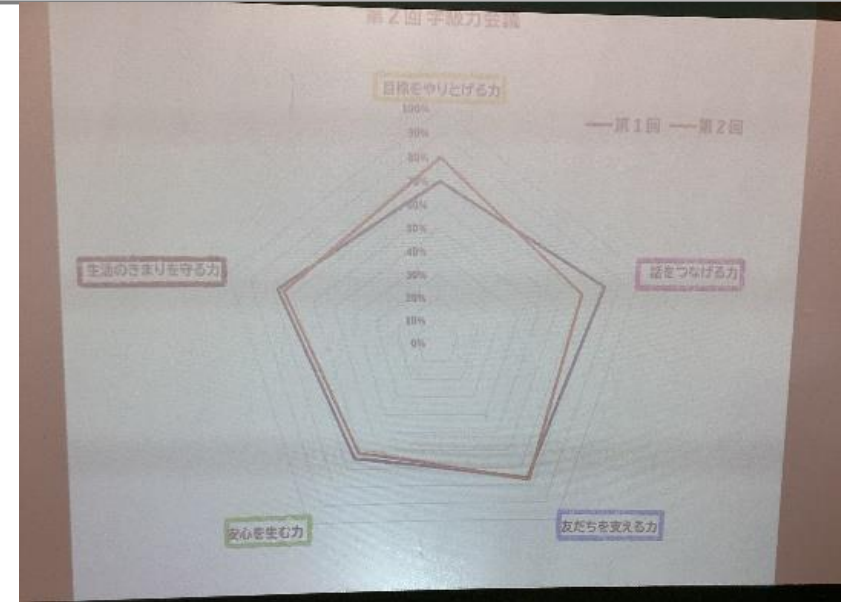
学級目標＝学級を目指す姿

【支持的風土】

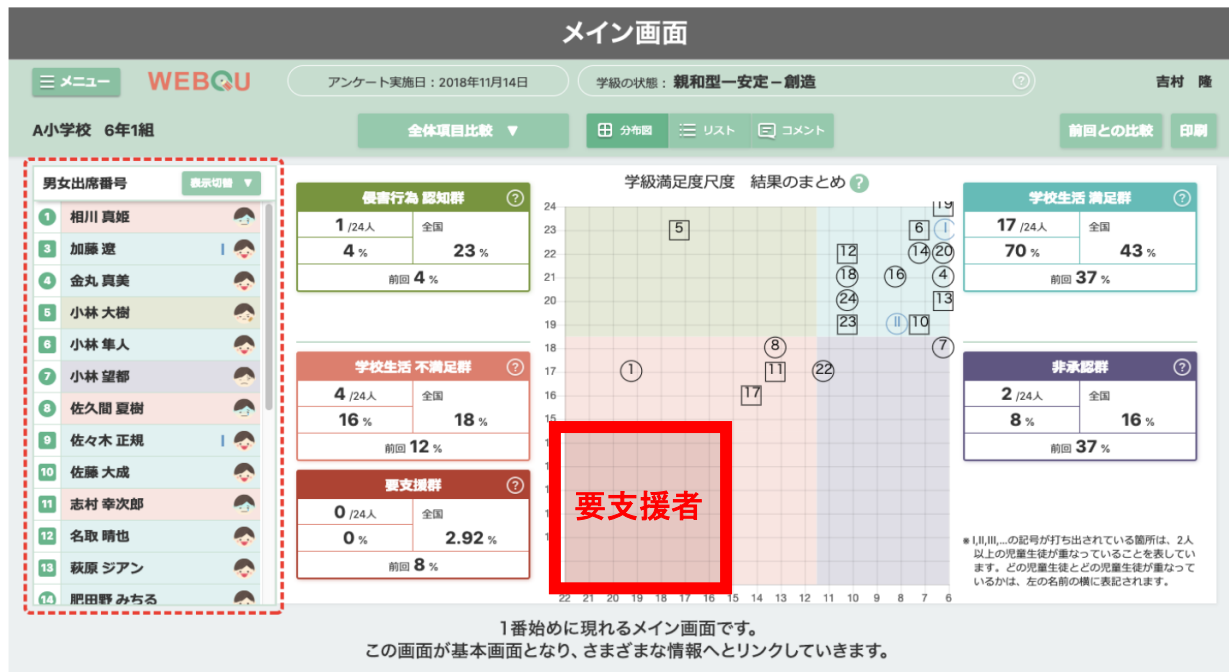
子ども一人ひとりが安心して学び合い、互いに認め合える学級の雰囲気。単に仲が良いだけではなく、安心感・信頼感・尊重・協力が学級に根付いている状態。

特に、学級経営の経験が少ない若手教員へアプリ

＋愛知教育大学磯部准教授をSVに迎えサポート



# 資料②いじめ＝可視化・データ共有×WEBQ-U・いじめSOS



WEBQ-Uデータも確認

児童生徒が通報

学校四役に  
メール通知

市教委にメー  
ル通知

対応を双方で確認

児童生徒へアプ  
ローチ

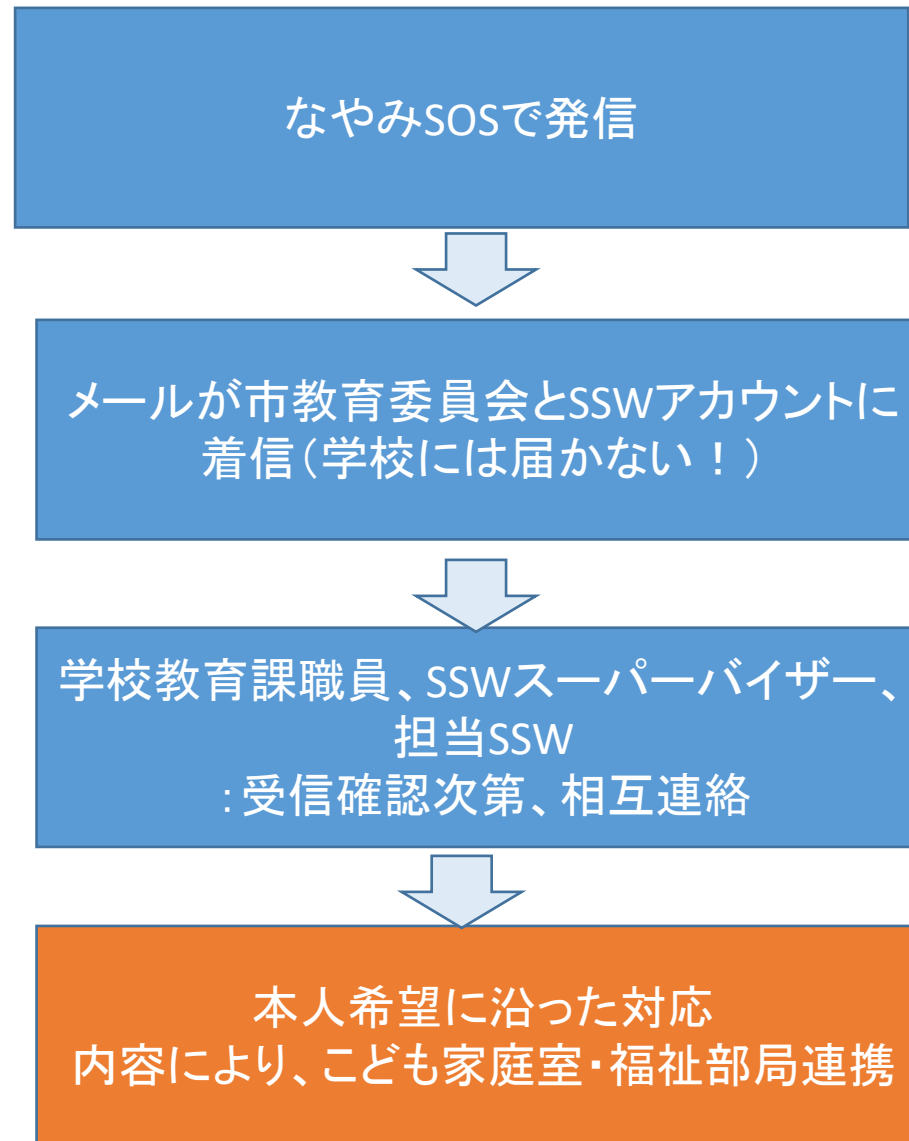
- 【WEBQ-U】:  
タブレットを用いた学級状況や児童生徒の状況を可視化するアンケート。タブレットを活用し、WEB集計のため、即時データ確認が可能。クラウド上から市教育委員会でもデータ共有。  
データで可視化されるため、特に要支援者(赤枠)に示された児童生徒は担任だけでなくスクールソーシャルワーカーも注視する。
- 【いじめSOS】  
タブレットによるいじめ通報。本人だけでなく、「あの子がいじめられているかも」という通報もある。  
ボタンを押すと、担任ではなく、学校四役(校長・教頭・教務主任・校務主任)と市教育委員会へ同時にメール通知。  
学校と市教委で内容と対応を双方向で確認後、児童生徒へアプローチ。  
クラウド上のWEBQ-Uのデータを市教委の見立てでも活用する。



# 資料③-1スクールソーシャルワーカー×なやみSOS



なやみSOS 担任(教職員)ではなく、SSWが対応  
SSWが重層的支援体制整備事業に組み込まれている本市ならではの仕組み。  
こどもの悩みを学校だけでなく、福祉・子育て部署と共に  
社会資源につなぐ



## 【相談5項目】

- ・ 家族のこと
- ・ 自分のこと
- ・ 友だちのこと
- ・ 学校のこと
- ・ その他

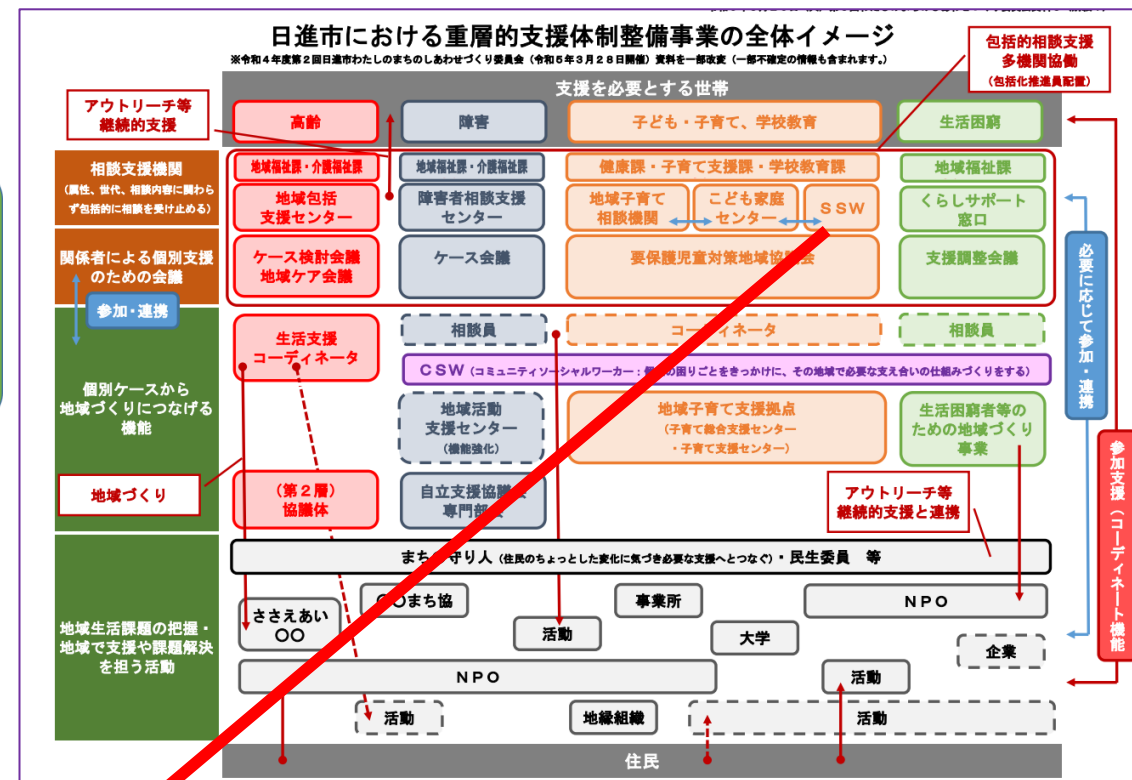
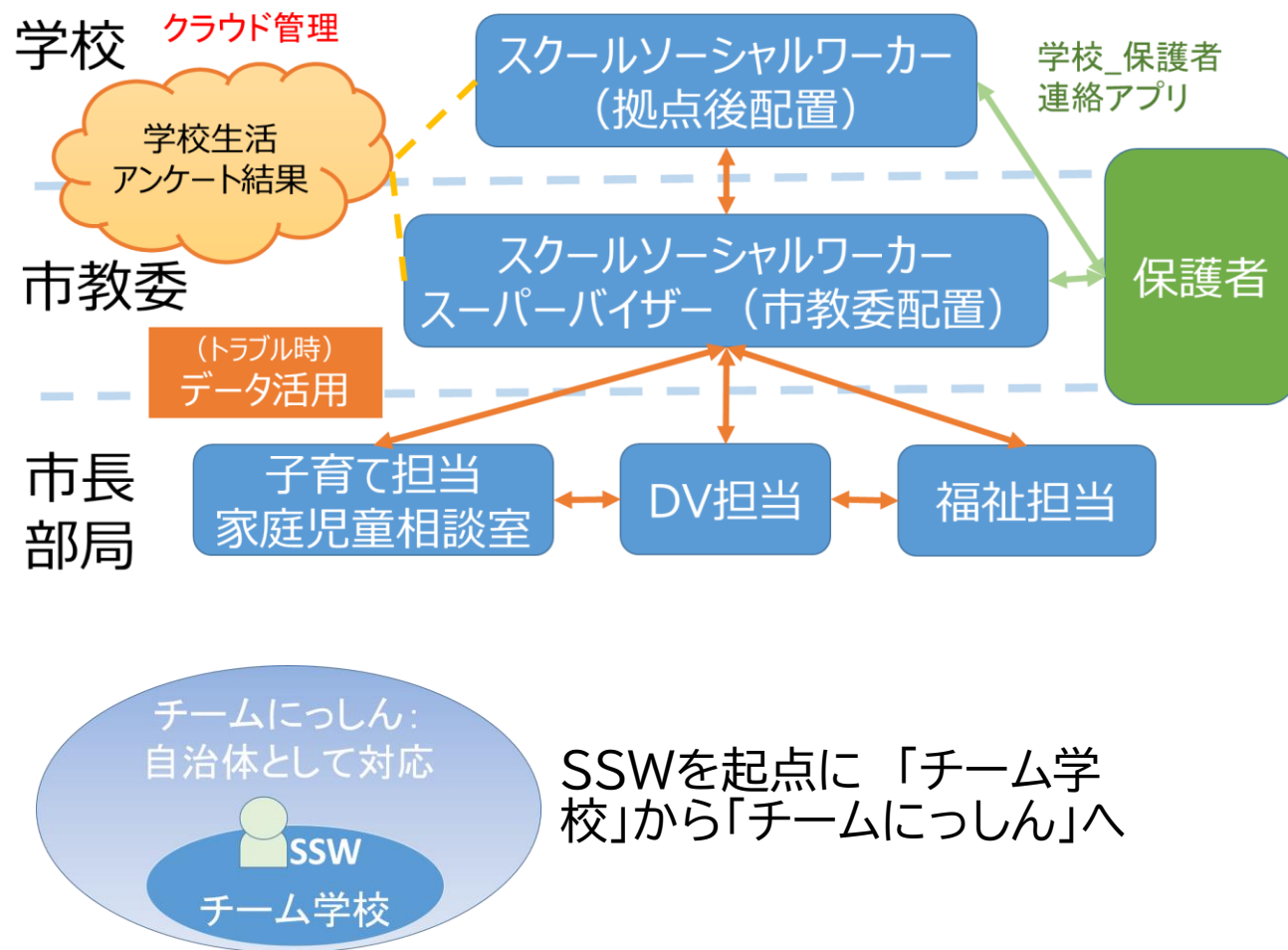


## 【対応3種類】

- ①SSWから声をかけてほしい
- ②先生を通して約束をしたい
- ③今すぐ相談はしないけれど、SSWからあいさつだけしてほしい



# 資料③-2スクールソーシャルワーカー×なやみSOS



日進市における重層的支援体制整備のイメージ図  
事業開始時点から、SSWが組み込まれている

部署連携にICTを活用し、教員多忙化解消＋子ども最善の利益へ

# 資料④相談機関のつながり\_ミッドランドスクエア映画鑑賞事業

## 1.目的

中日本興業(株)のご厚意  
引きこもり・不登校の課題へ  
『映画』が何かできないか？

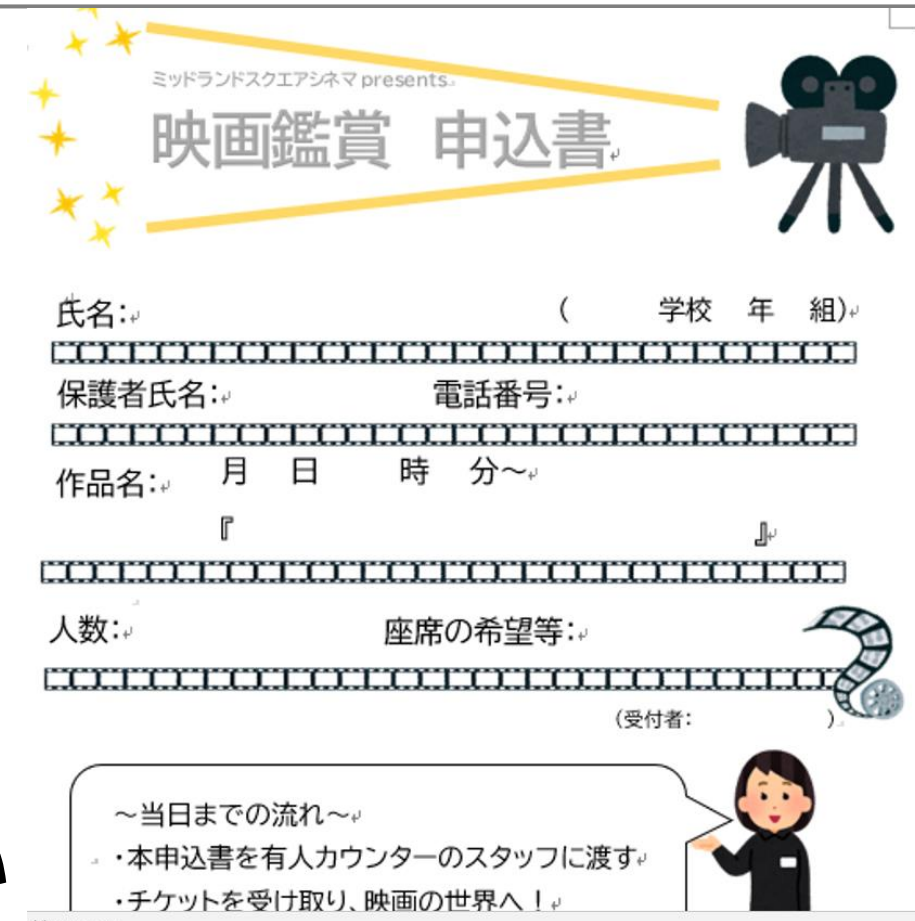
①映画鑑賞による外出機会

②本市相談機関とのつながりを持つ

【ポイント】

対象者全員に映画チケットを配る事業ではない  
名古屋駅で映画鑑賞＝心のエネルギーがたまり、最後の一押し

R6実績：鑑賞7件 保護者含め15名利用



ミッドランドスクエアシネマ presents.

### 映画鑑賞 申込書

氏名: ( 学校 年 組)

保護者氏名: 電話番号:

作品名: 月 日 時 分～

『 』

人数: 座席の希望等:

(受付者: )

～当日までの流れ～

- ・本申込書を有人カウンターのスタッフに渡す
- ・チケットを受け取り、映画の世界へ！

こどものための

ができました

日進市教育委員会  
TEL:0561-76-7371

8月

グループ学習室

普段は、小学校・中学校にいる  
スクール・ソーシャル・ワーカーが、  
夏休みの期間だけ **カピパラーム**に  
います。お話ししたいことがある人は  
気軽に話しかけてください。

**カピパラ**  
**カピパラーム**

**スクール・ソーシャル・ワーカー**  
社会福祉の専門職です。  
学校生活の中の困りごとについて  
どうしたらよいのか一緒に考え、  
必要な手助けをします。

スクール・ソーシャル・ワーカー  
夏休み出張相談  
in 図書館



# 資料⑥-1教材(社会科副読本)＝中学技術科ライフズ テック レッスン×連携協定大学



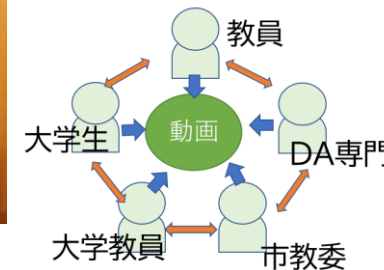
小学校社会科副読本の電子化  
多忙化解消のため、教員が全て行うのではなく、教員  
が監修し、動画・デジタル化はTRC-ADEACに委託  
(国交付金を活用)



中学生による市紹介ページ技術科(情報)授業でWEB作成  
毎年新たなコンテンツ追加(ライフズテック レッスンを利用)



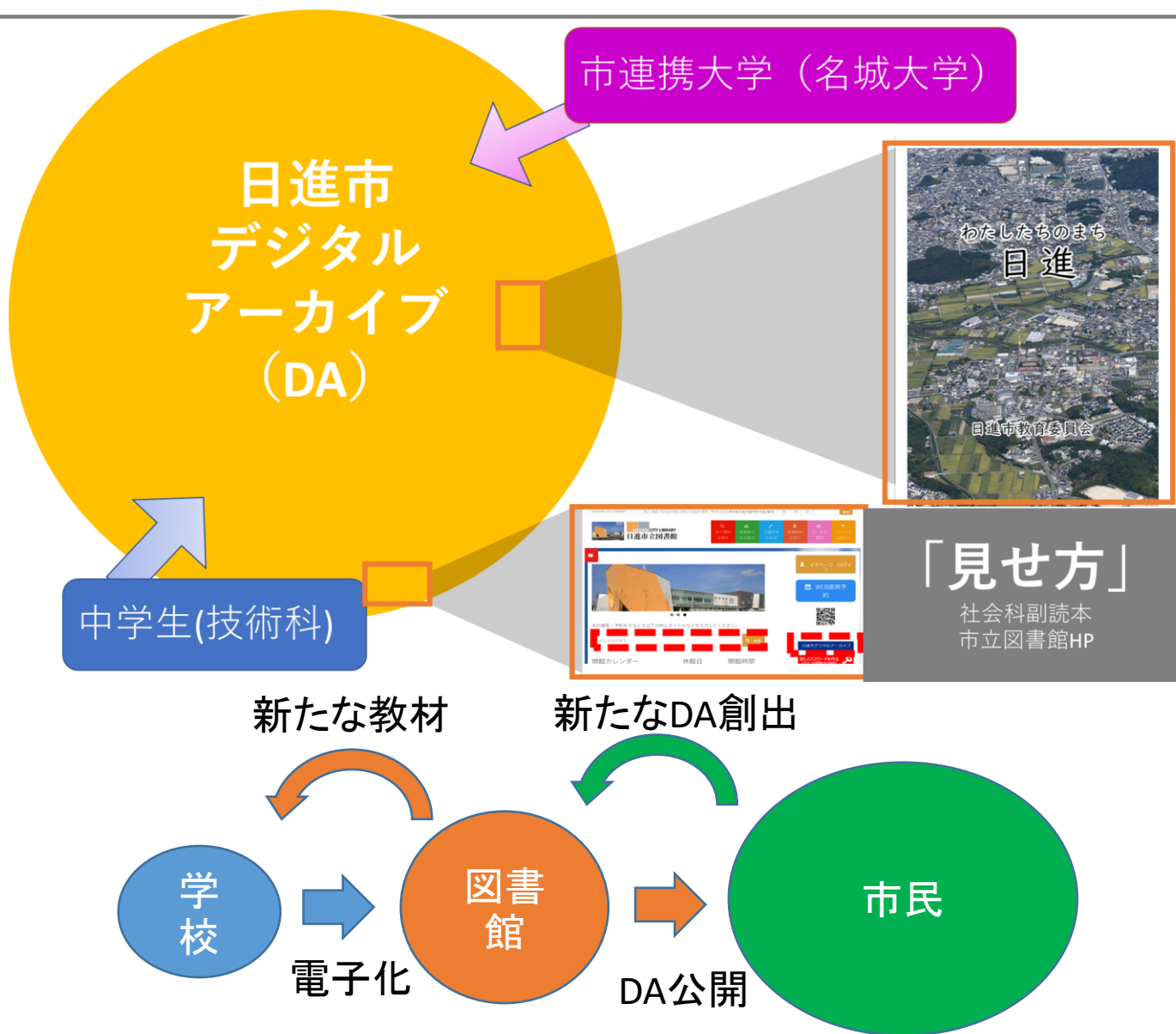
## 連携大学と協働で教材動画



【相互チェック】  
大学:教育学／映像専門家  
学校:教材活用  
市教委:PJコーディネート  
DA専門:搭載・最終編集

「学生が中心」となって市教育委員会とともに作った作品。  
全国自作視聴覚教材コンクール小学校部門入選  
【講評】市ゆるキャラ視点によるインタラクティブ(双方向)性が特徴的。

# 資料⑥-2教材(社会科副読本)＝中学技術科ライフスキルレッスン×連携協定大学



社会科副読本を市民も閲覧できるよう、市立図書館と連携副読本だけでなく、動画・写真データもOPAC検索から閲覧。同時に市広報誌や広報動画、行政資料も同様に検索閲覧できるよう整備。

⇒小学校社会科副読本で整備したデジタルアーカイブを市民(含む児童生徒)の学習教材としても使えるものへと発展

一時期に多額の予算をかけて作ったもの  
⇒次第に陳腐化(DAに限らず、施設・制度も同様)  
充実・魅力の維持向上のためには、循環が必要。

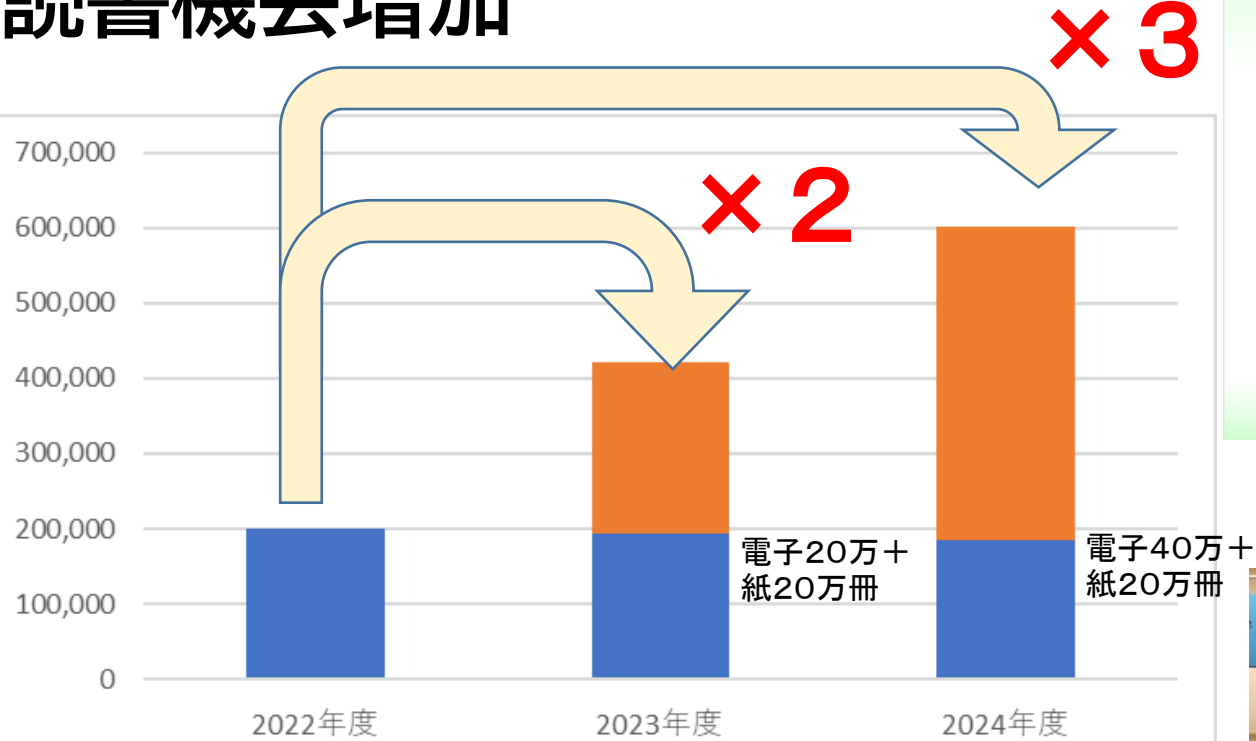
【市立図書館が果たす役割】

- ①「知の拠点」としてデジタルアーカイブにより、新たな市民財産の創造
- ②埋もれてしまう地域資料を、ひろく世界へ



# 資料⑦こどもの読書機会＝市立図書館×電子図書館

## 学校電子図書館導入で子どもの読書機会増加



令和6年度  
子供の読書活動の推進等に関する調査研究  
電子図書館・電子書籍と  
子供の読書活動推進に関する実態調査



文部科学省

令和6年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究 電子図書館・電子書籍と子供の読書活動推進に関する実態調査  
(表紙: 日進市立竹の山小学校・日進北中学校学校図書館にて電子書籍と紙書籍を楽しむ様子)

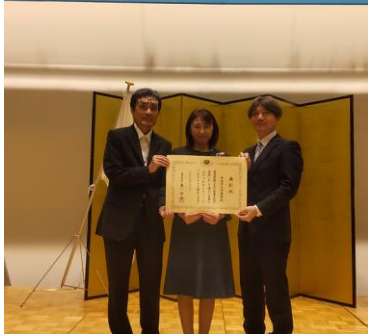
文部科学省リーフレットP9抜粋【成果と展望】  
令和6年度で本取組は3年目を迎えた。学校現場では、紙書籍と電子書籍のいずれも、場面に応じた活用が進められており、クラス全員で電子書籍を開いたり、副教材として電子書籍を活用している。電子書籍の選書は、こうした活用状況をみながら単元で使われる内容を意識したり、紙書籍では多く購入できないものを紙書籍と併用して購入している。また、学校現場の声から、文字を読むことに困難がある児童生徒向けのコンテンツも購入し、ラインナップは年数を重ねるごとにより充実したものとなっている。今後も学校図書館と連携しながら電子図書館のコンテンツ充実を図り、読書活動を推進していく。

[https://www.mext.go.jp/content/20250528-mxt\\_chisui01-000042427\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250528-mxt_chisui01-000042427_1.pdf)

### 令和7年度 子供の読書活動優秀実践図書館 文部科学大臣表彰

【講評】  
公共図書館と学校図書館のシステムを連携し、図書資料の共有化の道を拓き、図書館司書による学校図書館司書への支援がスムーズに行われるようにすることで、子どもの読書環境整備の充実化を進めた。また、学校電子図書館を導入したことで、児童生徒が学習用タブレットで読書ができるようになり、子どもの読書機会を大幅に増加させることとなった。  
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/aichi-manabi/kodomo-dokushyo-yushu-r7.html>

子どもの読書活動推進  
文部科学大臣表彰



### にっしん学校電子図書館

令和5年度寄付金活用事業  
eステ Kids / eステ COSMOPOL STATION で英語の本を読もう!



#### お知らせ

- 2025年2月12日 [「こども宇宙プロジェクト思い出ノート」が掲載されました](#)
- 2025年2月12日 [お金の本（日進金融協会寄贈本コーナー）](#)
- 2024年4月11日 [「わたしたちのまち日進」がタブレットで読めます!](#)

# 資料⑧登校支援策＝全国の応援×マイクラフト・AIロボット



ふるさとチョイス GCF

プロジェクトをさがす

応援寄付総額 21,790,367,942 円

ふるさと納税ガイド

お気に入り

寄付する

プロジェクトをさがす

応援メッセージ

GCFとは

ふるさとチョイス

災害支援

TOP > 過去実績 > 《ネクストゴール600万円に挑戦中!》学校に行けない・行かない子どもたちに教室以外の「居場所」を提供したい!

《ネクストゴール600万円に挑戦中!》学校に行けない・行かない子どもたちに教室以外の「居場所」を提供したい!

カテゴリ: 子ども・教育

達成!

寄付金額 5,438,000 円

543.8%

目標金額: 1,000,000 円

達成率	支援人数	終了まで
543.8%	83人	受付終了

愛知県日進市(あいちけん にっしんし)

♡ お気に入り

このプロジェクトは終了しました

## 登校支援に向けたユニークな事業費を ふるさと納税CFで 【マイクラフト】

教育委支援センターでマイクラフトを活用した中で、特に効果があった/ 変化があったと感じる子の  
周りに人が集まって、会話するようになったエピソード

○マイクラをしている来室してすぐに輪の中に入ることができた

- ・困っている子がいると進んで教えてあげていた
- ・ワールド内のきまりごとを話しあっていた
- ・やりたいことを提案し、周りも反応していた(「いいね」とか「じゃあ、自分はこうする」)

○挑戦してみるようになった

- ・最初は他の子がやっている様子を見ているだけだが、真似してやってみようになり、自分から質問するようになった
- ・自分がやれることだけで満足していたが、タブレットで調べたり、詳しい子に教えてもらったりして、やれることの幅が広がった(実験ワールドを作った、コマンドを使えるようになった)

【AIロボット(ロボホン)】

AIロボットが加わった変化

○アバター代わりに

入りづらい教室へ、自分の代わりに授業を受ける。無機質なWEBカメラではなく!

○AI会話

おしゃべり+会いに来る＝登校する理由に  
あいさつ(ロボホンにおはようと言って入室を)

○プログラミング

ロボを動かす＝出来ることの可能性を伸ばす。  
プログラミング+英会話…”GoodMoringing!” “で踊るプログラム等  
朝の会、帰りの会の司会

全国の応援により  
CF目標額  
5倍越え!





# 資料⑨保護者からの連絡＝負担軽減×学校保護者間連絡アプリ:コードモン



## 学校・保護者間連絡を一変

内容	これまで	導入後
欠席・遅刻連絡	①連絡帳 ②指定時間に電話 (例:朝8:00-8:30限定) 保護者:指定時間で電話をする、連絡帳を渡す心理的負担 学校:電話対応した教員が連絡・聞き取りミスが無いよう対応	アプリ連絡に限定  保護者:いつでも入力・送信可能 学校:データは全職員が閲覧可能 →教員間の連絡ミスが無くなる 学校の開封確認が保護者もわかるので、双方安心
学年・学級通信	紙 保護者:子どもからもらえない ファイル等で保存 学校:印刷手間	アプリ経由でデータ送付 保護者:確実に受け取れる。 見直し・検索も可能 学校:カラーで写真掲載も可能
学校からの重要なお知らせ 行事案内	紙 保護者:子どもが渡さないOR紛失時に学校とのトラブルの可能性。 当日まで保存が必須 学校:印刷手間	アプリ経由でデータ送付 保護者:確実に受け取れる アプリ内で検索可能 学校:全保護者の開封状況が確認できる
学校からのアンケート・日程調整	紙 保護者:子ども経由のため、受け取り・回答が学校に届いているか不安 学校:保護者同様	アプリ経由で回答 保護者:確実に回答できる 学校:集計も即時可能
不審者情報等 一斉連絡	電話 教員が全保護者に電話	アプリ経由で配信 未確認保護者にのみ、必要に応じて電話

R4導入時から、保護者登録率100%

【導入後、一番のメリット】

保護者:基本的な連絡は、アプリで。必要な時は電話/面談等、学校との距離感にバランスがとれる。

教員:管理職も含め、全職員が閲覧可能のため、連絡履歴がきちんと確認できる。

導入コストに対し、国交付金を有効活用

# 資料⑩-1こどもを守る＝子どもの権利学習×AI見守りアプリ:コドマモ

## 1. 目的

学校生活での写真・動画撮影に教員・児童生徒・保護者に安心を提供。

学習用タブレット更新時、児童生徒・教員分の全端末(ipad)写真・動画撮影時の不適切画像をタブレット内AIで検知

Adora㈱「コドマモ for School」導入

令和7年7月教員盗撮事件より以前から、導入に向け予算化を進めていた

【性的な画像(動画含む)の防止機能】AIを活用して、性的な自撮りや盗撮動画、不適切なスクリーンショットなどをリアルタイムで検出。

タブレットで撮影した全ての画像を自動的に検索。

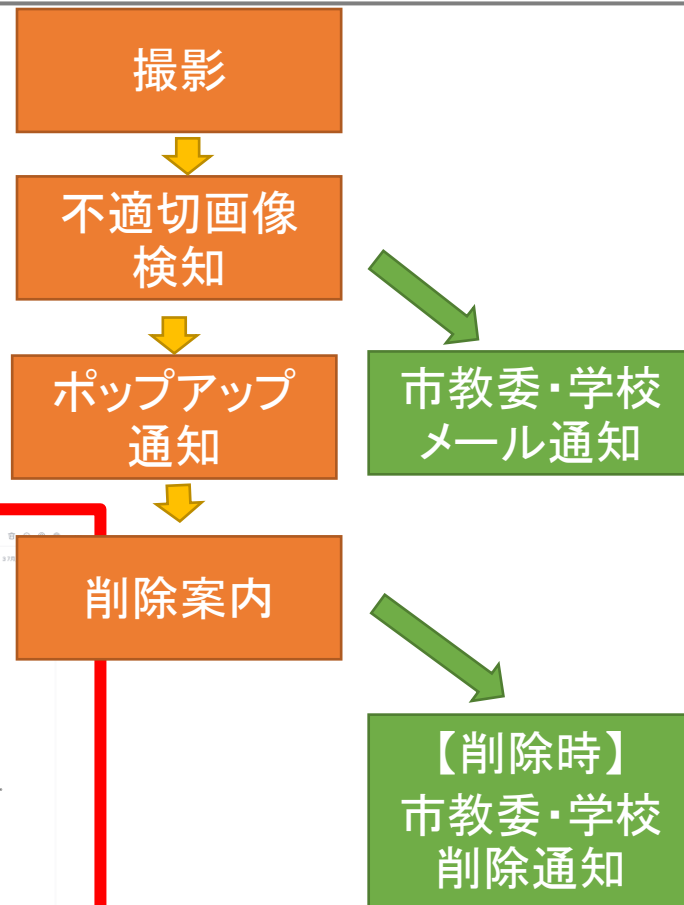
不適切と判断した場合

①タブレットにポップアップ通知と共に削除を促す。

②学校及び市教委宛に不適切画像の撮影・削除が通知。

⇒写真を撮る側(児童生徒+教員)も撮られる側

+保護者も「コドマモ」入りタブレットなら安心



ぜひ全国の学習用タブレット標準装備へ

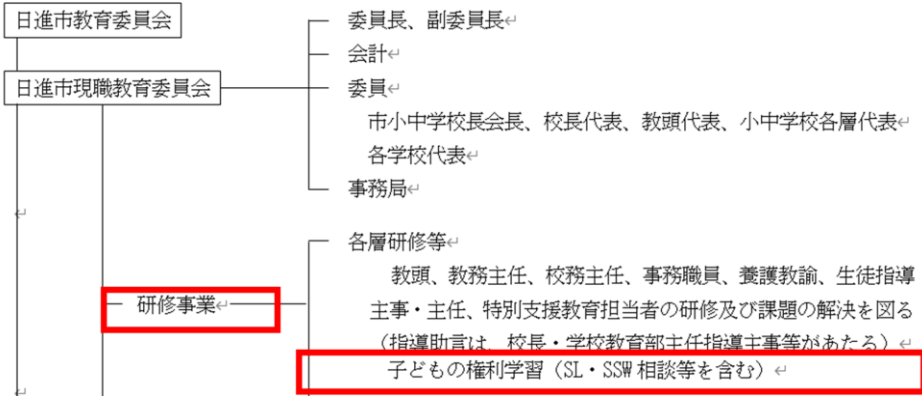
# 資料⑩-2 こどもを守る＝子どもの権利学習×AI見守りアプリ:コドマモ



アプリ導入済タブレットでの撮影  
＝子ども・保護者・教員も安心  
アドラ社と日進市で連携協定締結



R7開始:教員向け子どもの権利学習＝教員こそ最重要  
本市こども権利擁護委員の愛知東邦大学伊藤教授を講師に

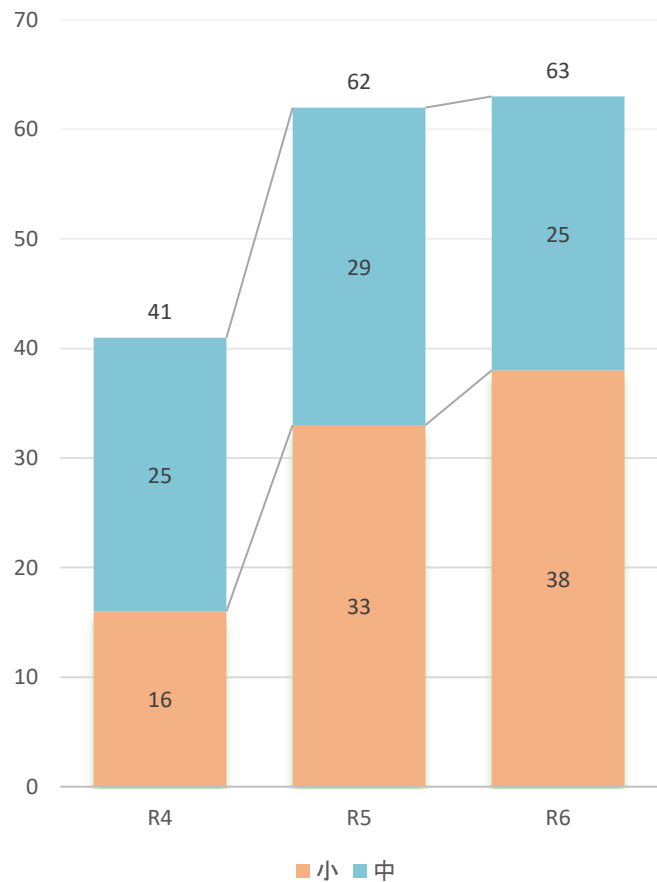


内容 アドラ社との連携協定事業  
AIの技術力があるアドラ社と教育現場での問題点を共有し、より「子どもの権利」が守られる製品に  
時期 令和7年8月から  
成果 市現職教育委員会情報部会を中心に課題整理。写真を撮ることの意識づけ

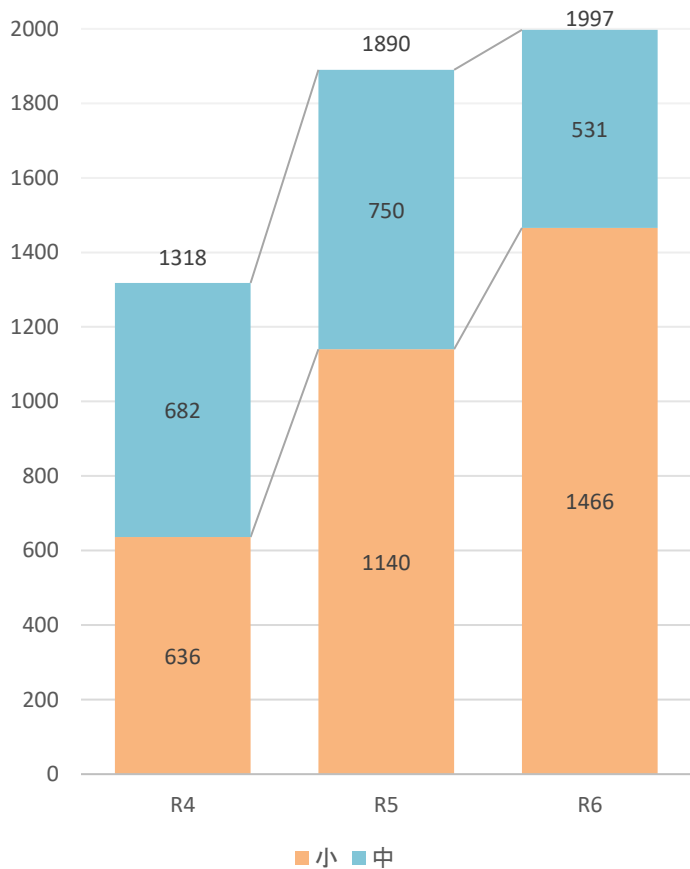
内容 市現職教育委員会の研修事業  
「子どもの権利学習」を新設  
SSW・SLへの相談も子どもの権利学習の研修事業として位置づけ  
時期 令和7年4月から  
成果 夏休み中に教職員向けに子どもの権利学習研修  
R7年度 3校(うち小1、中2)  
SSW+子ども家庭室向け  
「子ども権利擁護委員の活用に向けた勉強会」秋予定  
講師 日進市子ども権利擁護委員 愛知東邦大学 伊藤龍仁教授

盗撮は犯罪。子どもの権利を守るためのハード・ソフト面の対策

# 資料⑪ 教育支援センター利用状況変化



利用承諾児童生徒数  
R4比\_小2.4倍



年間通室日数  
R4比\_小2.3倍、中0.8倍

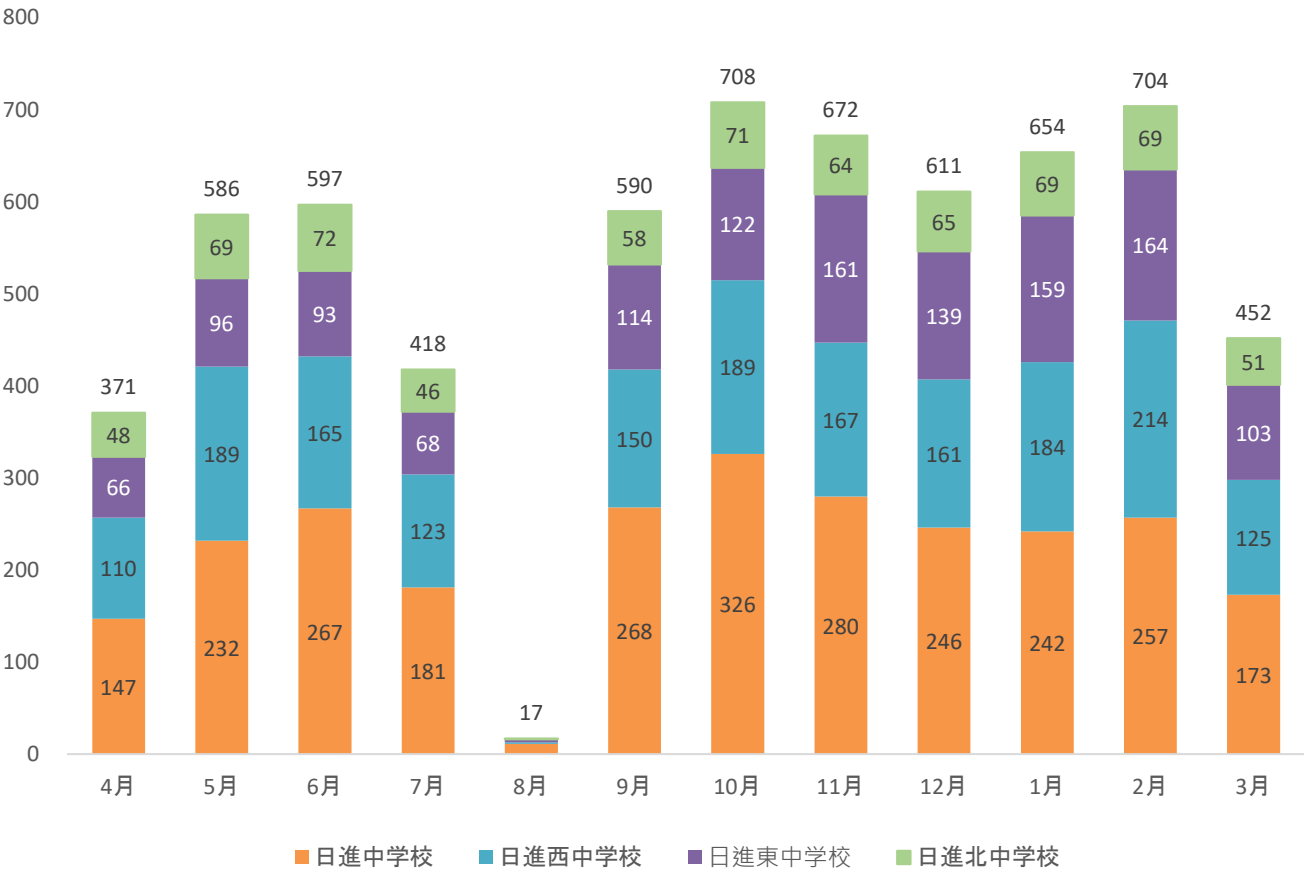
校内教育支援センター  
R5 2中学校開設  
R6 全4中学校開設

中学生から小学生中心へ

学年別\_年間通室日数

	R4	R5	R6
小1	0	6	92
小2	5	3	319
小3	7	355	153
小4	4	194	277
小5	270	152	375
小6	350	430	250
中1	193	298	151
中2	209	264	278
中3	280	188	102
計	1318	1890	1997

# 資料⑫校内教育支援センター



年間利用人数		年間延べ利用人数	
日進中学校	35	日進中学校	2630
日進西中学校	53	日進西中学校	1779
日進東中学校	39	日進東中学校	1288
日進北中学校	11	日進北中学校	683
計	138	計	6380

【1日でも利用した人数】

## 校内教育支援センター

R5 中学校2校で開設(日西中・日北中):教育支援センターから遠い学校を優先して開設

R6 市内全4中学校で開設

校内ハートフレンド開設に伴い、教育職任期付短時間職員として経験豊かな職員を安定した身分で雇用



# 資料⑬\_おいしい給食プロジェクト

学校に行きたくない子どもが給食をきっかけに学校に行くように

○給食の見える化。カラーイラストの「献立カレンダー」  
毎月の献立をイラストにして、子どもたちの給食への期待(ワクワク)を促す。

○毎月24日に実施する「ニッシー給食」など特別メニューの日  
全国の給食人気メニューなどを取り入れた新たな献立を提供する。

○毎週月曜日は人気メニュー、毎日おすすめメニューを提供  
週の初めで気が重くても学校に行きたくなるような献立提供。

○献立コンクールの優秀作品を毎月、献立に再現  
再現した日には、市長・教育長が当事者の学校に行き給食懇談会を開催。



ハートフレンド月例会より  
「明日の給食も食べたいから、登校します」

# 資料⑭ 給食付会議＝おいしい給食を大人も共通言語へ

- ・給食事業の啓発とともに家族団らんや健康増進のきっかけとすることを目的に、世代を超えてなじみのある「学校給食」を子どもたちだけでなく、広く市民に提供するための環境づくりを進めている。
- ・その一環として、市内で活動する団体が会議を開催する際に、学校給食センターを会場として利用し、合わせて給食を試食する。
- ・費用 1人500円(当日徴収)
- ・昨年度の実施例:交通指導員会議
  - ・交通指導員が学校給食センターで11月定例会を開催し、会議後、給食を試食した。
  - ・学校と同じように参加者自ら配膳・片付けまで行い、給食体験を下校する子どもとの会話に活用した指導員もいた。

子どもだけでなく大人も共通の話題  
自宅で「今日の給食は…。昔は…。」





学級力向上PJ	スマイルクラス	支持的風土	いじめ基本方針	いじめSOS	WEBQ-U	SSW	なやみSOS	重層的支援体制整備
市現職教育委員会研修	学級づくり	学級会	担任以外のフォロー	いじめ	要支援者対応	こども家庭室	なやみ	チーム支援
学級目標	学級経営	Tサポート	教育相談	ケース会議	スクールロイヤー	福祉・社協	声の掛け方	信頼できる大人
市民財産化	大学連携	中学生参加	学級づくり	いじめ	なやみ	市立図書館連携	学校図書館司書	同一の図書館システム
デジタルアーカイブ	教材づくり	市立図書館管理	教材づくり	こどもの権利×ICT	読書	居場所としての学校図書館	読書	電子図書館
副読本電子化	チェック体制	循環	登校支援	保護者コミュニケーション	こどもを守る	読み放題パッケージ	学校貸し出し配送便	司書WEB月例会
クラファンで応援	居場所づくり	専任指導員	必要に応じた面談・電話	連絡ミスをなくす	データ共有の利点	こども向けオリジナル動画	教員研修	こどもの権利学習
マインクラフト	登校支援	校内教育支援センター	やり取りの透明化	保護者コミュニケーション	双方向性	学校・保護者も守る	こどもを守る	見守りアプリコードマモ
AIロボット（ロボホン）	コミュニケーション	心のエネルギー補充	負担軽減	連絡アプリコードモン	時間削減	学校・保護者理解	こども権利擁護委員	スクールロイヤー

## 子ども権利×ICT実現のためのマンダラチャート

### 【POINT】

- ①こどもの権利条例制定済み自治体の優位性を活かす。
- ②重層的支援体制整備事業に学校も組み込む。

### 【日頃より意識していること】

- ①デジタルとアナログのバランス(  ⇒ デジタル)
- ②ICTの“C”を最優先  
C = Communication

### 【チームにつしんへ】

こどもの権利を守ることは、学校・保護者の課題だけではなく、子育て部局・福祉部局を中心に「市全体」の関わりが必須。

# 現在進行中のプロジェクト

- ①子どもによる提案型研修
- ②ふるさと納税クラウドファンディング
- ③UFJリバーズピッチ:「子どもの権利」新事業PR

⇒子ども権利条例制定済み自治体の優位性を活かした、  
こどもの権利が守られる体制づくり

# 子どもによる提案型研修（10/11プレゼン実施）

## 【「子どもによる提案型研修」とは？】

未来を担う子どもたちの育成を目的として、子どもが自らの関心や思いに基づいて「やりたいこと」を企画・立案し、必要な交渉や調整を自ら行いながら実現に向けて取り組むことで、主体性・実行力・社会性を育むものです。

## 【経験の共有】

市教育委員会への実績報告会を実施＋提出された報告書をデジタルアーカイブ化

学校電子図書館及び市立図書館においてWEB閲覧できるよう整備

## 【R7プレゼンテーション\_10/11 図書館】

- ・日進中学校\_「平和学習体験ツアー in 広島」
- ・日進西中学校\_「～世界とつながる～外国人交流プロジェクト」







# 学校で「こどもの権利」を守る新事業展開！



## 子どもの権利を守るため、新たな取り組み

- ①学校電子図書館へ子ども権利学習オリジナル動画導入
- ②学校ADR設置(学校トラブルへ調停システムを構築)

### 新事業①学校電子図書館で「子ども権利学習」



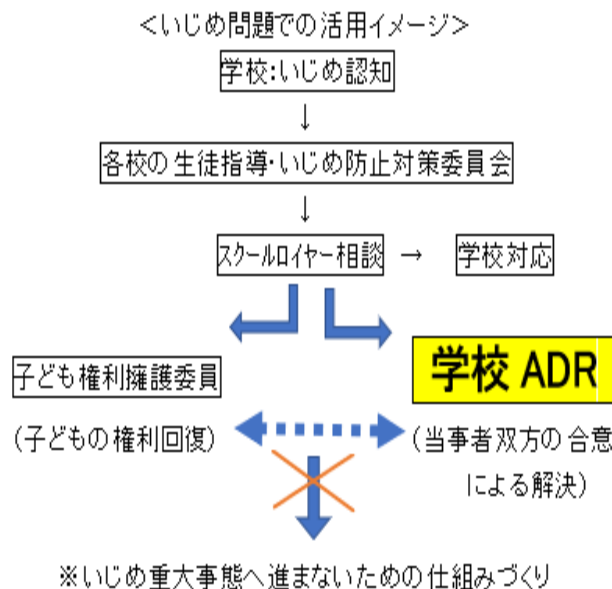
【オリジナル動画イメージ】

「子どもが学ぶためのオリジナル動画を、学習用タブレットで閲覧できるよう学校電子図書館へ導入・拡充します。3分程度のショート動画とし、授業でも休み時間でも見やすいものとしします。

製作には、本市子ども権利擁護委員でもある愛知東邦大学 伊藤龍仁教授に依頼します

## デジタル×アナログのハイブリッド！ ICTのC=Communicationを最重視

### 新事業②学校トラブル解決のため、専門家による調停システムを構築。ADRとスクールロイヤー連携は全国初かも？！



#### 【学校ADR】

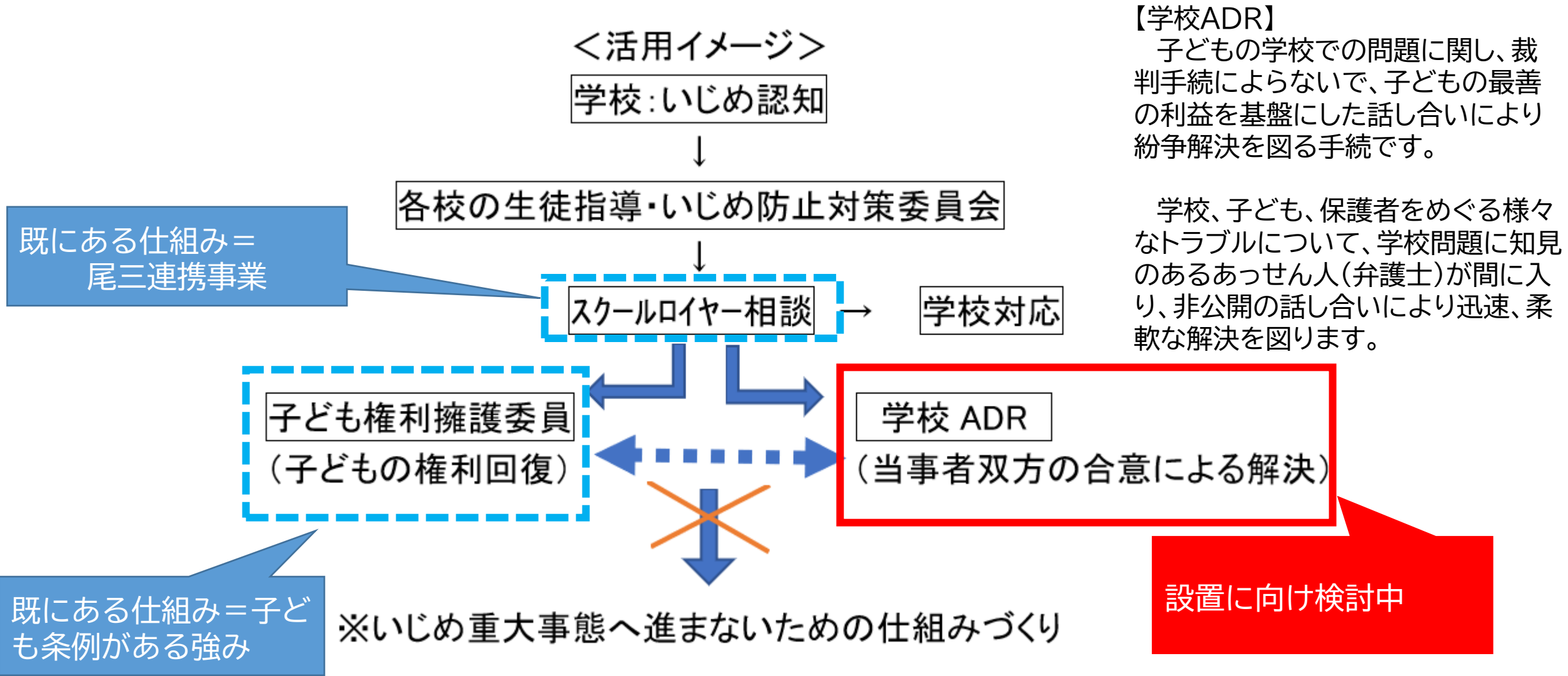
子どもの学校での問題に関し、裁判手続によらないで、子どもの最善の利益を基盤にした話し合いにより紛争解決を図る手続です。

学校、子ども、保護者をめぐる様々なトラブルについて、学校問題に知見のあるあっせん人(弁護士)が間に入り、非公開の話し合いにより迅速、柔軟な解決を図ります。

この事業により、子どもの権利確保と共に、保護者の安心・教員多忙化解消も見込まれます。

【新事業2】学校ADRイメージ

# 全国初：学校でのトラブルを専門家3チームによりサポート



子どもの権利擁護委員と学校ADRによる両輪